

便利さの陰に潜む危険

携帯電話は、いつでもどこにいても連絡がとれる便利さから、昭和60年にはビジネスマンの必須アイテムとして、肩にかけて持ち運ぶタイプが登場しました。しかし、通信エリアが都市部に限定されることや、通話料が固定電話と比べかなり高額であることなどの理由から、一部の人のための利用に留まり、昭和63年度末当時は、わずか0・2%の加入率でした。

その後、電話機本体の小型化や通信エリアの拡大、通話料の値下がりなどにより、平成23年度末には加入率が100%を突破し、平成25年6月末には107・5%になりました。この数字は、全国民が携帯電話などを最低1台は所有していることを表していて、急速に普及したことが分かります。

携帯電話やスマートフォン（スマホ）は、大人だけでなく小中学生や高校生にも普及しています。それに伴い、さまざまな被害やトラブルなどが発生し、社会問題にもなっています。

便利さの陰に、どれだけの危険が隠れているか、あなたは知っていますか。

このようなトラブルが発生しています

なりすまし行為

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）やメールで、他人のふりをして活動することです。

有名アイドルグループのメンバーや芸能人のマネージャーを名乗り、「仕事に悩みがある」「相談にのってほしい」と有料の出会い系サイトを通してメールのやりとりをし、有料ポイントを消費させるなどの手口により、37万人から116億円をだまし取った事件が発生しています。企業や団体の公式ページのふりをすることもあります。

有害サイトへのアクセス

携帯電話やスマホ、パソコンなどから接続できるウェブサイトは、67種類のカテゴリに分類することができます。その中には、小中学生や高校生には有害とされる出会い系サイトやアダルトサイト、犯罪・暴力などに関するサイトも存在します。

また、企業や自治体などの紹介のものだけでなく、接続するだけで高額な請求をされる、いわゆるワンクリック詐欺に遭うこともあり、悪意のあるものもあります。

携帯電話依存症

携帯電話やスマホなどの個人向け通信機器が提供するサービスに没頭し、日常生活に支障をきたすほどの状態になっていることを示す俗語です。携帯中毒ともいわれています。

携帯電話などが手元になかったり、通信圏外や充電切れなどで通話・通信ができない時に、精神的に不安定になったりパニックに陥るなどの症状が現れる人もいます。

ながら操作による事故

「歩きスマホ」ともいい、道路や階段など公共の場所で、携帯電話やスマホなどの操作を歩きながら行う行動のことです。

操作している本人は、手元に集中しているため周りが見えておらず、通行人とぶつかったり、自転車やバイク、自動車との接触事故が発生し、けが人が出ています。

また、駅のプラットホームから線路に転落する事故も発生しています。

掲示板への不適切な書き込み

電子掲示板（掲示板）は、携帯電話などやコンピュータネットワークを使用した環境で、記事を書き込んだり、閲覧したり、コメント（レス）を付けられる仕組みで、情報交換や会話などを行うことができます。

しかし、ハンドルネームや匿名での書き込みができるため、無責任な書き込みをしたり他人の悪口や個人情報を書き込むなど、プライバシーの侵害や名誉棄損などの問題が発生しています。

個人情報の流出

不正なアプリケーションソフトウェア（アプリ）により、所有するスマホに登録されている連絡先などの個人情報が、本人の知らないうちに抜き取られることがあります。

この不正アプリは、スマホの充電を長持ちさせるアプリやゲームのアプリ、セキュリティ対策アプリを装ってダウンロードさせるなど、一見すると正規のアプリとの区別ができません。

上記で紹介した「掲示板への不適切な書き込み」に関しては、ツイッターやフェイスブックに、飲食店やコンビニエンスストアのアルバイト店員などが、店内で撮影した不適切な写真を投稿し多額の損害賠償を求められたり、逮捕されたケースもあります。

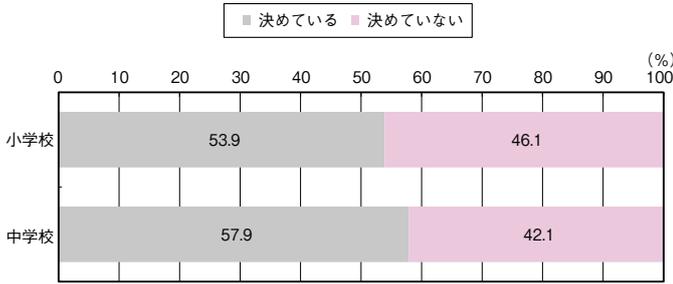
他にも、※LINEを通じて知り合った人に、プライベートな写真を不用意に送信したためにその写真をインターネット上に流出されたり、全く会ったことのない人に交際を申し込み、断られたことに腹を立て知り合い数人で相手に暴行を加えるといった事件などが全国各地で発生しています。

アメリカCNN電子版では、「ツイートする前に考えよう」と題した記事の中で、不用意な投稿で人生を台無しにしないために、『自分のツイートを読み返す』『匿名でもいつかはばれる』『特定の人に送信するダイレクトメッセージと混同しない』などの8カ条を紹介して、注意喚起をしています。

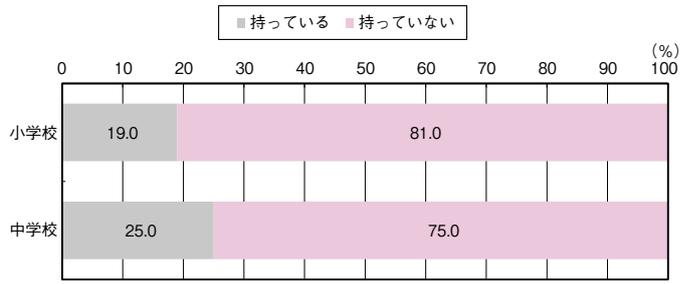
これらのトラブルに巻き込まれないためにも、携帯電話やスマホを利用する前には、危険性を認知しておく必要があります。

※LINE（ライン）：スマホでリアルタイムのコミュニケーションを行うためのアプリ

家族と携帯電話の使い方についてのルールを決めていますか。
 (「持っている」と答えた者のみ回答)



自分の携帯電話を持っていますか。



小中学生の携帯電話・インターネット等に関する調査結果から見えるもの

愛媛県教育委員会では、平成25年1月に小学5年生から中学3年生までを対象とした、「携帯電話・インターネット等に関する調査」を実施しました。そのうち、大洲市の小学生878人、中学生1338人の調査結果について、一部を紹介します。

この調査によると、自分の携帯電話を持っていると答えた小学生は167人でおよそ5人に1人、中学生では335人で4人に1人が持っているという結果がでています。

自分の携帯電話を持っている小中学生に聞いた「使い方のルールを決めているか」との問いについては、ルールを決めていると答えた小学生は167人中90人、中学生では335人中194人でした。半数以上の家庭で、ルールが決められています。

次に、携帯電話やパソコンなど、インターネットに接続できる機器で、被害やトラブルに遭ったことがある小学生は27人、中学生は268人となっていて、所有率の高い中学生の方がトラブルに多

く見舞われていることが分かります。その中でも特に、迷惑メールやチェーンメールなどの被害が多く発生しています。

なお、携帯電話やパソコンの危険性については、学校や家族から教えてもらったという回答が多く、次いでテレビや本、友達からの情報となっています。しかし、小学生で193人、中学生で95人の児童生徒が、特に教えてもらったり学んだことがないと答えています。

最近では、家庭用ゲーム機でオンラインゲームのできるソフトが発売されています。また、学校ではパソコンを使った授業が導入されるなど、情報通信技術の急速な進歩により、子どもたちは幼い頃から情報化社会で生活しています。しかし、情報化社会が抱える危険性などについては知らないことが多く、ある程度早い時期から正しい知識を教えることが必要です。そのためには、家庭と学校が連携を図っていくことが大切だと思えます。

携帯電話やパソコンの危険性について、これまで説明を受けたり、学んだりしたことがありますか。 ※複数回答可

回答	小学校 (%)	中学校 (%)
1 学校で教えてもらった	54.4	85.9
2 親(保護者)から教えてもらった	39.2	39.6
3 兄弟姉妹から教えてもらった	5.8	10.1
4 公共施設などで開かれた講座に参加して教えてもらった	0.5	1.6
5 買ったときに店員に説明してもらった	3.3	8.0
6 友達から教えてもらった	4.8	8.3
7 テレビや本・雑誌などで知った	20.0	24.8
8 インターネットで知った	4.2	9.3
9 その他	0.6	0.1
10 特に教えてもらったり学んだりしたことはない	22.0	7.1

携帯電話やパソコン等のインターネットに接続できる機器で、次のようなことをされた経験がありますか。 ※複数回答可

回答	小学校 (%)	中学校 (%)
1 インターネットの掲示板やメールで悪口を書かれた	0.2	1.0
2 チェーンメールを送られた	1.4	13.0
3 自分の個人情報や写真などを悪用された	0.0	0.5
4 心当たりのない利用金額の請求を受けた	0.2	1.6
5 広告などの迷惑メールがたびたび送られてきた	1.3	8.1
6 他人からしつこくメールを送られたり、つきまとわれたりした	0.2	1.2
7 インターネットで知り合った人と実際に会った	0.2	0.8
8 その他	0.2	0.5
9 特にトラブルにあったことはない	96.9	80.0



大洲東中学校
教頭 片山 きみよし 公由 先生

私は中学生にとって、携帯電話やスマホは必要のないものだと思います。現在、スマホやネットを使った事件や犯罪が多発し、多くの子どもたちが巻き込まれ、大きな社会問題となっています。学校では、それらの危険性について子どもたちに伝える取り組みをしています。

どうしても携帯電話やスマホを持つ必要があるのであれば、保護者と使い方についてのルールを決めて、責任ある使い方をしてほしいと思います。



河辺中学校 2年
高木 かえで 楓 さん

私は、中学1年生になった時に、兄や姉と同じようにスマホを持たせてもらいました。その時に、両親と使い方やルールについて話し合いをしました。

今まで、迷惑メールやチェーンメールが送られてきたことはありませんが、テレビなどで事件や事故について報道されると、私も気をつけないといけないと思います。

これからも、使い方に気をつけてルールを守って使いたいと思います。

携帯電話について、私はこう思う



たけひこ
大野 武彦さん
(若宮)

私が携帯電話を使用するようになって、10数年が経過しました。息子から、いつでも連絡がとれるようにと勧められたのがきっかけで、使用を始めました。

私は今まで、電話機能しか使用したことがなく、メールやインターネットを利用したことがありません。若い人たちが利用しているLINEやツイッターなども、自分とは無縁のものだと思っています。

これからも、家族や友人との連絡をするための便利な道具として、携帯電話を使用したいと思っています。

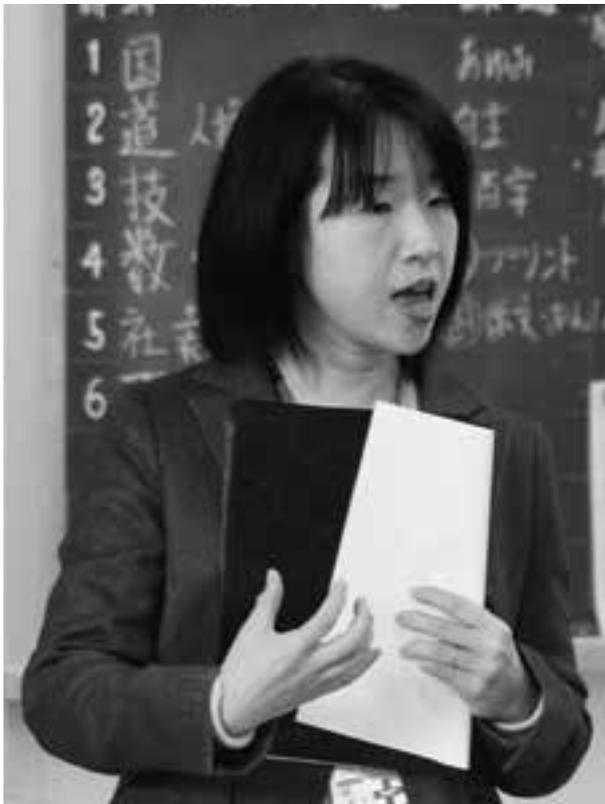


なおみ
富永 直実さん
(白滝)

現在、中学2年生になる息子には、携帯電話もスマホも持たせていません。以前、自分も持ちたいと相談を受けたことがありましたが、その時にメリットやデメリット、必要性について話し合いました。その結果、中学生の間は持たせないことになりました。

携帯電話やスマホがあれば、言いにくいことでもメールなどで伝えることもできますが、やはり、親子や友達と直接会話することを大切にしてほしいと思っています。

家族と相談してルールを決め、マナーを守って安全な使い方を



NTTドコモ
あんしんインストラクター

中島 ^{ひろみ} 洋美 さん

国内にある携帯電話各社では、携帯電話やスマホを安心・安全に利用していただくために、利用する際を守ってほしいルールやマナー、トラブルへの対処方法などを啓発する「ケータイ安全教室」を小学校高学年から中学生向けに開催しています。

弊社の安全教室では、これから持つ際の参考として、または持ち始めの頃に使う上での基本的なルールやマナーについて説明する「入門編」と、使い慣れてきた頃のルールやマナーを説明する「応用編」があります。特にその中では、『知らない人からのメールは無視する』『アプリを利用する時には、安全確認をしてから利用する』『セキュリティ対策ソフトを導入する』などを中心に啓発を行っています。また、保護者・教員編やシニア編もあり、幅広い年齢層に対応できる内容となっています。

最近では、スマホを利用する小中学生が多くなっていて、知らないうちに自分や友達の情報をインターネット上に載せてしまっていることがあります。それにより、被害者になることもありますが、一方で加害者になってしまうこともあります。そのような人を少しでも少なくするためにも、携帯電話会社は携帯電話やスマホなどを販売するだけでなく、啓発活動も継続して実施していく必要があると思います。

携帯電話などは、使い方を間違わなければとても便利なアイテムです。今後、みなさんがトラブルや不幸な事件に巻き込まれることのないように、携帯電話各社でも啓発活動に力を入れて、正しい知識を広めていきたいと思っています。

安全便利に使うためにすべきこと

現在は、いつでもどこでも連絡が取れるようになり、GPS（全地球測位システム）機能を使って、自分の現在地を調べることができるなど、とても便利な世の中になっています。また最近では、腕時計型の携帯電話も発売されるなど、次々と新しい商品が開発・販売されています。

しかし、便利さの陰に多くの危険が潜んでいることも覚えておかなければ、思いがけない被害やトラブルに遭うことがあります。特に、それらに関する知識が十分でない小中学生や高校生は、標的にされやすい傾向にあります。

携帯電話などで、犯罪やトラブルに巻き込まれないようにするために、どのような危険性があるのかを事前に調べたり、身近な人と話し合うことが大切です。そうすることで、トラブルを未然に回避することができ、安全に使用できる一歩につながるはずです。

台風27号に伴う前線豪雨による洪水から学ぶ

昨年の10月23日から25日にかけての台風27号に伴う前線豪雨による洪水では、建物や農作物などに被害が出るとともに、学校や公民館・集会所などへ避難された人もいました。被災された皆様にはお見舞いを申し上げます。

今回の洪水では、表1のとおり、観測史上1位・3位の水位を記録した平成16年・23年の洪水を上回る平均総雨量を記録したにもかかわらず、被害は最小限にとどまっています。

そこで、今後の参考としていただくため、当時の状況を各種データなどを基に振り返ります。

表1 【過去の洪水との比較】

項目	昭和18年7月 (低気圧)	昭和20年9月 (枕崎台風)	平成7年7月 (梅雨前線)	平成16年8月 (台風16号)	平成17年9月 (台風14号)	平成23年9月 (台風15号)	平成25年10月 (前線)
平均総雨量 (大洲上流域)			289mm	212mm	310mm	213mm	245mm
最大流量 (大洲地点)	約5,400m ³ /s (※過去最大)	約5,000m ³ /s (戦後最大)	約2,900m ³ /s	約3,200m ³ /s	約3,300m ³ /s	約3,200m ³ /s	—
※水位							
大川 水位観測所			6.77m	8.26m	7.97m	7.34m	5.50m
大洲第二 水位観測所			5.84m (※激特事業指定)	6.85m (※観測史上1位)	6.49m (※観測史上2位)	6.20m (※観測史上3位)	4.83m
※被害状況							
死 傷 者	131人	152人	—	—	—	—	—
家屋	流 出	554棟	388棟	—	—	—	—
	全 壊	396棟	1,634棟	—	—	1棟	—
	一部損壊	—	—	—	6棟	1棟	—
	浸 水	10,816棟	9,915棟	1,195棟	969棟	518棟	304棟

※「過去最大」とは、記録に残るものとしての過去最大です。また、「激特事業」とは、国の直轄河川激甚災害対策特別緊急事業をいい、平成11年度までの5年間で10地区の堤防整備が実施されています。

※水位観測所での観測は、大川（森山）、大洲第二（肱川橋）ともに昭和29年から行われています。

※被害状況は大洲市地域防災計画の数値（ただし昭和18年・20年は旧大洲市の数値）、その他は国土交通省の数値です。

鹿野川ダムが貯留効果を発揮

鹿野川ダムでは、グラフ1のとおり、10月25日の午前5時00分に貯水位が84mを超え、表2のとおり、放流量を「毎秒850m³(t)まで増加」させるレベルとなりましたが、引き続き毎秒600m³(t)までの放流に抑えました。

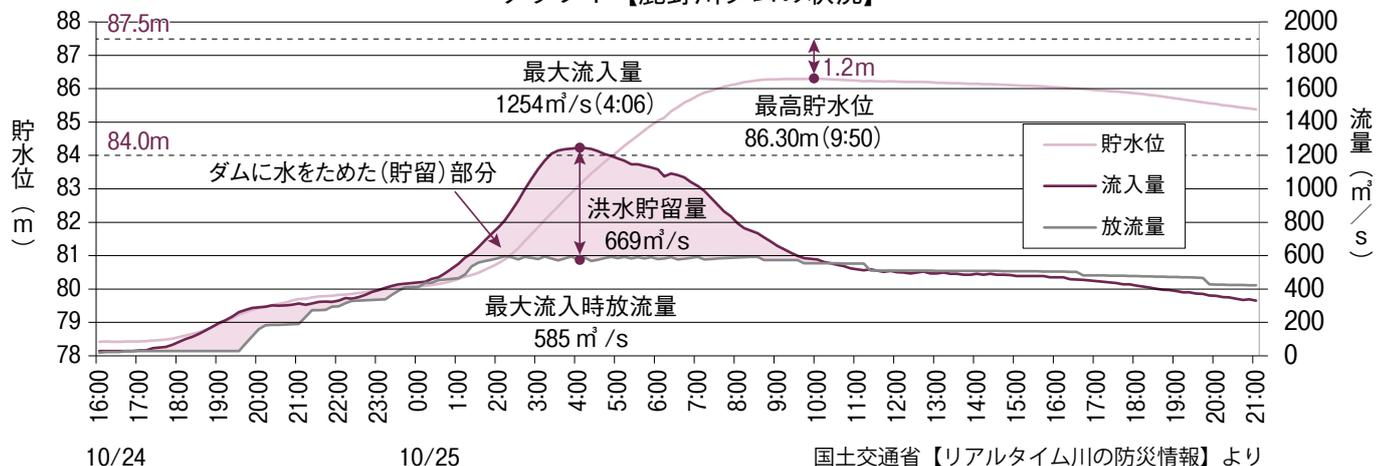
これは、ダム上流域の降雨のピークが過ぎていたことによるもので、最大流入時（午前4時06分）に半分以上の水をためる（毎秒1,254m³(t)流入－585m³(t)放流＝669m³(t)貯留）など、貯留効果を大いに発揮し、大規模災害を防ぎました。（大洲第二水位観測所（肱川橋）の水位を約70cm低下）

しかし、最高貯水位が86.3mを記録し、87.5mの「流入量と同じ量になる時まで最大放流」するレベルにあと1.2mと迫り、ギリギリの対応であったのも事実です。全国各地で多発する「かつて経験したことのないような大雨」など、近年の豪雨の激化傾向を考えると、洪水調節能力を現在の約1.4倍にする同ダム改造事業（トンネル洪水吐工事など）の完成（平成27年度末予定）が待たれます。

表2 【基本的な操作基準】

貯水位	放流量（操作内容）
84.0mまで	最大600m ³ /s 放流
84.0m	850m ³ /s まで増加
87.5m	流入量と同じ量になる時まで最大放流
89.0m	満水位

グラフ1 【鹿野川ダムの状況】



ポンプ排水で浸水被害の拡大を防止

大洲市では、今年度から国が管理していない区間における洪水時のポンプ排水作業を市内3業者に委託しています。今回の洪水では、西大洲地区において約4時間にわたる久米川へのポンプ排水を行い、浸水被害の拡大を防ぐことができました。

また、東大洲地区においても、市ふれあいパークの貯留効果と国の排水ポンプ車出動により、約7haの土地の浸水被害を防いでいます。



西大洲地区のポンプ排水 (25.10.25)

【洪水時の豆知識1】避難情報の発令の時期について

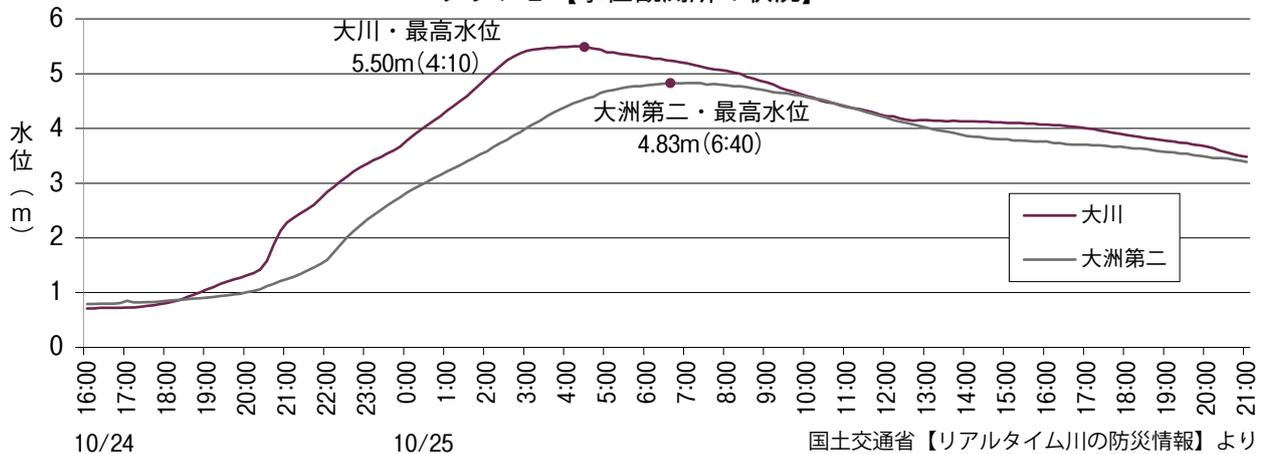
避難情報は、大川水位観測所（森山）または大洲第二水位観測所（肱川橋）の水位が表3の数値を超え、なお上昇している場合に、地域の雨量情報なども考慮して発令されています。今回の洪水では、グラフ2のとおり、大川が5.50m、大洲第二が4.83mまで達していて、着色した部分の発令を行いました。

大洲市に大雨・洪水警報が発令された場合は、国土交通省ホームページ「リアルタイム川の防災情報」から両観測所の水位が確認できるようになっていますので、ぜひご活用ください。

表3 【避難情報発令基準】

地区	避難準備情報		避難勧告		避難指示	
	大川の水位	大洲第二の水位	大川の水位	大洲第二の水位	大川の水位	大洲第二の水位
大川・菅田	4.0m		4.3m			
久米	5.0m		6.4m		7.5m	
柚木・只越・五郎(一部)	5.0m		5.9m			
平・東大洲		5.0m		5.8m		6.3m
春賀・八多喜・伊州子	5.5m		6.4m			6.3m
豊中・白滝		5.0m		5.5m		6.5m
大和・上老松・ 沖浦・長浜		満潮位が3.2m (3.5m)を超える 予想の場合 満潮2時間前 の水位 4.5m (4.0m)		満潮位が3.2m (3.5m)を超える 予想の場合 満潮2時間前 の水位 5.0m (4.5m)		満潮位が3.5m を超える予想 の場合 満潮2時間前 の水位 5.0m

グラフ2 【水位観測所の状況】



【問い合わせ先】

下記までお気軽にお問い合わせください。

治水第1課
☎24-1718

【洪水時の豆知識2】水位観測所のピーク時間（最高水位）の予測について

水位観測所のピーク（最高水位）時間は、各地点の最高値を参考におおむね予測することができます。

たとえば、今回の洪水では、表4のとおり、大川のピーク時間から2時間30分後に大洲第二がピークを迎えていますが、ピーク時間はダムは放流量や小田川をはじめ支川の降雨状況などによって変わりますので、目安としては大川のピーク時間から約2～3時間後に大洲第二がピークを迎えると考えてください。なお、鹿野川ダムからの到達時間は、大川が約1～2時間後、大洲第二が約3～5時間後です。

表4 【各地点のピーク時間】

地点	日時
大川水位観測所	25日 4:10
大洲第二水位観測所	25日 6:40

新造船 あおしま 完成



大洲市の第三セクターである「青島海運有限公司」で、長浜―青島間の運航に利用されている定期旅客船『あおしま』の新造船が、このたび完成しました。

去る12月15日(日)、長浜ふれあい会館で島民のみなさんをはじめ、市内外より多くの関係者を招き、新造船『あおしま』の竣工式が行われました。青島海運有限公司代表取締役の清水市長は、本事業に携わった関係者へ謝意を表しながら『「あおしま」は島民みなさんの生活の足として、また、飲料水などの生活必需品の輸送手段として重要な役割を担っています。今後も、利便性や安全性の向上に資する運航に努めていきます』と話しました。

島民を代表して松下洋一よういちさんは「船の老朽化が心配されてきた中、待ち望んだ新船竣工の日を迎えることができました。この素晴らしい船を、末永く大事に利用させていただきたいと思います」と謝辞を述べられました。

その後、長浜港浮桟橋に場所を移し、お披露目式が行われました。記念セレモニーのテープカットを終えると、出席者は続々と船内に入り、完成したばかりの船を見学していました。

新造船は、利便性（運行時間の短縮）・安全性（高齢者にとってやさしい造り）が向上していて、これから多くの方々に活用されることとなります。



- 1 島民を代表してあいさつをする
松下洋一さん
- 2 お披露目式の記念セレモニー
- 3 船内を見学する関係者
- 4 船内の様子
- 5 島民のみなさんとの記念撮影

青島ってどんなところ

青島 (AOSHIMA)

青島は、長浜港の沖合い13.5kmに位置する有人島であり、現在、長浜港との間に1日2往復の航路があります。島の人口は、多い時には800人を超えていましたが、平成25年12月末現在では17人にまで減少しています。

青島はもともと、馬島おきのみなせしままたの名を沖水無瀬島はりまのくに さ こしうらといわれる無人島でした。寛永16年(1639)、播磨国坂越浦(現在の兵庫県赤穂市坂越)の与七郎という人が、一族など16戸を率いて移住して以来、望郷ぶりょうと無聊ぶりょうの生活を自ら慰めるために、氏神(坂越神社の分身)の前で踊り明かしたことが、愛媛県指定無形民俗文化財として知られる「青島の盆踊り」の始まりだと伝えられています。

青島の盆踊りは300年以上の歴史を持ち、現在でもお盆時期には「賤ヶ岳七本槍」の装束で魚の供養としての大漁踊りや、「赤穂四十七士」の装束でその年に亡くなった人の霊を慰める亡者踊りがそれぞれ行われています。踊りには「白石踊り」「三つ拍子」「きりあい」「いなおさえ」「笠踊り」「綱ひき」「木山踊り」など多くの種類があり、赤穂の郷愁を感じさせるような出し物や演出が多いのが特徴です。

最近では「猫の島」として注目を集めていますが、海に囲まれた立地から素晴らしい景観を臨むことができ、大自然を存分に感じることができます。

「青島のここが好き」

のんびりと穏やかな時間が流れていること、それが青島の魅力の一つだと思っています。この島には、古くから受け継がれる伝統や文化があり、景観をはじめとした自然あふれる観光名所が数多く存在します。みなさんには、そういう面にも目を向けていただき、さらに興味を持ってもらえればうれしいです。

島民のつぶやき



1



4



2



5



3

～運航時刻と運賃のお知らせ～

毎日運航していますが、天候によって欠航や運航時間を変更する場合があります。

便	長浜港発～青島港着	青島港発～長浜港着
1便	8:00 → 8:35	8:45 → 9:20
2便	14:30 → 15:05	16:15 → 16:50

区分	片道(往復)
大人 (12歳以上)	665円(1,330円)
小人 (6歳以上12歳未満)	335円(670円)

※消費税率の変動により、料金が変わります。

- 1 歴史ある青島の盆踊り
- 2 船から見た青島
- 3 集落の様子
- 4 自然あふれる景観
- 5 島民と暮らす猫